

(独)家畜改良センター
令和4年12月6日

(注1)海外種雄牛は、調整交配記録がないこと等のため国内種雄牛と同等の信頼性が確保できないことから参考情報とする。
なお、本評価報告はインターバルによる日本向けの国際評価値を利用しているが、泌乳持続性、暑熱耐性、産子難産率及び産子死産率については、国内の取扱いに準じた種雄牛評価値を掲載している。

(注2)遺伝ベースは2015年に生まれた検定牛の平均。

(注3)泌乳形質の信頼度(75%以上)及び国内の娘牛割合は乳量、体型形質の信頼度(60%以上)及び国内の娘牛割合は決定得点における値。

(注4)遺伝因子のBLCは牛白血球粘着性欠如症(BLAD)のキャリアー、BLFはBLAD検査済み陰性、CVCは牛複合脊椎形成不全症(CVM)のキャリアー、CVFはCVM検査済み陰性であることを示す。

(注5)血統濃度が不明、または93%未満の種雄牛は血統濃度を表示しない。

(注6)表中の各成分は、重み付け後の数値を表示している(産乳成分の重み=6.0、耐久性成分の重み=2.8、病繁殖成分の重み=1.2)。
このため、総合指数は、産乳成分 + 耐久性成分 + 疾病繁殖成分 により計算される。

(注7)在群能力および疾病繁殖成分に用いる形質が評価値を持たない場合、その形質の評価値を0として総合指数の計算に用いる。

(注8)娘牛受胎率は、初産娘牛受胎率である。